

様 式 C - 1 9、F - 1 9、Z - 1 9 ( 共通 )

## 科学研究費助成事業

## 研究成果報告書



平成 2 7 年 6 月 1 9 日現在

機関番号 : 1 3 1 0 2

研究種目 : 若手研究(B)

研究期間 : 2011 ~ 2014

課題番号 : 2 3 7 3 0 7 7 2

研究課題名 ( 和文 ) デューイ教育学構想における教師教育論の解明と教師の専門的力量形成のための理論構築

研究課題名 ( 英文 ) Clarification of the theory of the teacher training in Dewey's design of education and construction of a theory of the development of teachers' competencies

研究代表者

伊藤 敦美 ( Ito, Atsumi )

長岡技術科学大学・工学 ( 系 ) 研究科 ( 研究院 ) ・准教授

研究者番号 : 8 0 3 8 7 3 1 5

交付決定額 ( 研究期間全体 ) : ( 直接経費 ) 1,600,000 円

研究成果の概要 ( 和文 ) : 本研究は、シカゴ大学教育学部及び教育学部のカリキュラム分析を行うことによって、デューイ教育学部構想における教師教育論を解明し、我国における教師の専門的力量形成のための理論を構築することを目的とした。その結果、夏学期における現職教員の教育、シニアカレッジコース及び他学科における基礎的理論の学習及び実践を伴う授業を通しての実証的な教育学研究、実践の経験に基づいたグラデュエイトコースにおける理論研究及び中等教員養成というカリキュラムデザインを導いた。今日の教師教育及び教師養成教育においても、現職教員の再教育のための多様な機会及び複数学科による教員養成体制の構築が求められる。

研究成果の概要 ( 英文 ) : The purpose of this study is to discuss the characteristics of Dewey's theory of teacher training as it was practiced when Dewey was Head Professor of the Department of Pedagogy and Director of the School of Education at the University of Chicago. A close reading of the curriculum shows the following: many courses were offered in the summer term; through cooperation of the senior college course of the Department of Pedagogy with the other departments, students had opportunity to learn basic theory and the demonstrative method of education; theoretical studies and secondary-school teacher training in the graduate course based on the practice of education. I would claim that today's education and training of teachers should also include various opportunities offered by cooperation among several related departments in the university.

研究分野 : 教育学

キーワード : 教育学 教師教育 デューイ教育学構想

### 1. 研究開始当初の背景

我国においては、教員に対する揺るぎない信頼を確立する目的で、教職課程の質的水準の向上、教職大学院の創設、教員免許更新制の導入等、教員の資質能力向上のための改革が進められている。近年、特に「教員養成の高度化」や「教員養成の年限延長」といった「専門職としての力量を備えるための教師養成教育の在り方」、「教職大学院における教育」や「免許状更新講習における教育」といった「専門職としての力量を高めるための教師教育の在り方」が大きな課題となっている。シカゴ大学におけるデューイ教師教育実践はこの課題解決のための示唆を与えるものである。

シカゴ大学教育学科は 1895 年にデューイを学科長として、教育学部は 1901 年に F.W. パーカーを学部長として開設された。教育学科では教育学研究・教育、師範学校や教員養成校の教師・教育長などの専門職教育及び中等教員養成を、教育学部では初等教員養成を行っていた。しかし、1902 年にパーカーが急逝したことにより、デューイは教育学部長に就任し教育学科と教育学部が分業していた役割を統合する必要に迫られた。教員養成はジュニア・カレッジ相当の初等教員養成からシニア・カレッジ相当の初等・中等教員養成へと大きく変更された。

デューイが、シカゴ大学教育学部長として挑んだ、教育学研究・教育、教師養成教育、教職経験者の専門職教育の統合、そして、教員養成の高度化は、課題を共有する今日の我国の教師教育に大きな示唆を与え得る教育実践である位置づけられる。

### 2. 研究の目的

以上のことを背景に、本研究ではデューイの教師教育カリキュラムを分析することを通して、デューイ教育学構想における教師教育論を解明すること、「専門職としての力量を備えるための教師養成教育」及び「専門職としての力量を高めるための教師教育」の理論枠組みを構築することを研究目的とした。

そして、具体的な研究課題を次の通り設定した。

- (1) デューイが学部長を務めた 1895～1901 年度のシカゴ大学教育学科と学部長を務めた 1902～1903 年度のシカゴ大学教育学部のカリキュラム及び両カリキュラムの共通点と相違点を明らかにすること。
- (2) パーカーが学部長を務めた 1901 年度のシカゴ大学教育学部のカリキュラム及びデューイとパーカーのカリキュラムの共通点と相違点を明らかにすること。
- (3) 教育学部の整備・拡充のためにデューイがモデルとしたコロンビア大学ティーチャーズ・カレッジのカリキュラムとデューイのカリキュラムと

の共通点と相違点を明らかにすること。

- (4) (1)～(3)の調査分析結果に基づきデューイ教師教育カリキュラムの特徴を明確化すること。
- (5) デューイの教師教育の理論的根拠の一つとなっているデューイ実験学校における教師の力量を高めるための具体的な取組についての検討を行うこと。
- (6) (1)～(5)の研究成果から得られた知見を基にして「専門職としての力量を備えるための教師養成教育」及び「専門職としての力量を高めるための教師教育」の理論枠組みを構築すること。

### 3. 研究の方法

『シカゴ大学年次記録』及び「シカゴ大学教育学部記録 1900-1926」を中心にして、デューイが学科長を務めた 1895～1901 年度のシカゴ大学教育学科のカリキュラム及び学部長を務めた 1902 年度と 1903 年度のシカゴ大学教育学部のカリキュラムの調査分析を行う。各年度の教育目標、授業科目の種類と構成、授業内容、授業形態、教員組織、指導体制、学位などについて検討する。また、同資料を用いて、パーカーが学部長を務めた 1901 年度のシカゴ大学教育学部のカリキュラムの調査分析を行う。そして、『ティーチャーズ・カレッジ記録』に基づき、デューイがシカゴ大学教育学部の整備・拡充のためのモデルとしたコロンビア大学ティーチャーズ・カレッジのカリキュラムの調査分析を行う。

さらに、「実験学校ワーククリポート」等の資料を中心にして、デューイ実験学校における教師の力量を高めるための具体的な取組についての検討を行う。

各資料の調査分析より得られた知見に基づきデューイ教師教育カリキュラムの特徴を明確化し、今日の我国の教師教育に生かせる点を検討する。

### 4. 研究成果

研究成果として以下のことが示された。

- (1) シカゴ大学教育学科におけるデューイ教師教育カリキュラムには、夏学期のマイナーコースの履修形態による授業の開講、教職経験を考慮した授業プラン、すなわち、連携する諸学校における観察や実習時間の教職経験の有無による増減を可能とする授業科目構成、シニアカレッジ・コースへの学校現場での実践を伴う授業科目の開講、グラデュエイト・コースにおける中等教育に関する授業科目の充実、他学科との連携といった特徴が見出された。すなわち、夏学期における現職教員の教育、シニアカレッジ・コー

ス及び他学科における基礎的理論の学習及び実践を伴う授業を通しての実証的な教育学研究、実践の経験に基づいたグラデュエイト・コースにおける理論研究及び中等教員養成というカリキュラムデザインである。こうしたカリキュラムによって、デューイは、教育学科において、教育学研究・教育、師範学校や教員養成校の教師・教育長などの専門職教育及び中等教員養成を実践していた。

- (2) 教育学科と同様に教育学部においても夏学期のマイナーコースの履修形態による授業の開講、他学科との連携の特徴がみられた。しかしながら、教職経験を考慮した授業プラン、すなわち、連携する諸学校における観察や実習時間の教職経験の有無による増減を可能とする授業構成、シニアカレッジ・コースへの学校現場での実践を伴う授業科目の開設、グラデュエイト・コースにおける中等教育に関する授業科目の充実の特徴は見られなかった。教育学部では、4つのコースを設けて、初等教員を目指す場合、中等教員や師範学校教員を目指す場合、非アカデミック教科のいずれかに特化した教員を目指す場合に分けられていたことから、個別の授業において実践的な学習の機会を増減させるのではなく、コースごとに履修者のニーズに合ったカリキュラムを用意することで、結果的に個々の学生の経験に応じた授業プランとなっていた。
- (3) コロンビア大学ティーチャーズ・カレッジにおける教師教育カリキュラム、シカゴ大学教育学部における教師教育カリキュラムと比較した結果、両者の組織は非常に類似していたこと及び教育史、教育原理、心理学、教育心理学といった学問を重視していたという共通点が認められた。その一方でシカゴ大学教育学部はシニア・カレッジ段階における2年間で初等・中等学校教員養成を行うことを目指していたのに対して、ティーチャーズ・カレッジにおいては大学院課程において最低1年間で中等学校・カレッジ教師の養成を行い、学部課程で初等学校教員養成を行っていたこと及びシカゴ大学教育学部における、教育経験者、教育の専門職のための教育学理論の開発、実践における例証という観点では今回の分析ではティーチャーズ・カレッジにおいてはほとんど見られないという相違点が認められた。
- (4) (1)～(3)の結果より、デューイ教師教育の特徴として、夏学期を利用した短期間での現職教員の教育、シニアカレッジ・コース及び他学科におけ

る基礎的理論の学習及び実践を伴う授業を通しての実証的な教育学研究、受講者の教育経験に基づいたグラデュエイト・コースにおける理論研究及び中等教員養成、あるいはコース分けによる履修者のニーズや教育経験に応じたカリキュラムの提供というカリキュラムデザインが導かれた。今日の教師教育及び教師養成教育においても、現職教員の再教育のための多様な機会及び複数学科による教員養成体制の構築が求められる。

- (5) デューイ実験学校においては、同僚性を構築することによる教師の力量を高めるための工夫が行われていたことが明らかになった。デューイ実験学校の教師たちは、それぞれ専門分野を持ったスペシャリストであり、部門別に分かれてはいたが、各教師が自らの実践レポートに基づき検討を行う教師会議やインフォーマルな関わりを持ち、同僚性を構築することによって、個々の教師の力量を高める学び合いが行われていた。学校のディレクターであったデューイが、教師会議の開催、毎週の実践報告レポートの執筆、教師同士が助言しあうことなどを求めていることも重要なポイントである。現代の我国の教師の多くは、多忙化の加速に悩んでおり、今以上の会議の負担を増加することは困難であるが、会議の持ち方を工夫するなどして、同僚性を再構築し、学び合う場や機会を持つことの必要性が示唆された。また、教師教育の場や機会を設定するためには管理職がリーダーシップを発揮することの重要性も示唆された。近年、中学校のみならず、小学校においても教科担任制を採る学校が増えていることから、専門分野の異なる教師の学び合いによる教師の専門的力量形成に関する示唆が得られた意義は大きい。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

- (1) 伊藤敦美、「デューイ実験学校の現代的意義 - デューイ実験学校における教師の役割」『日本デューイ学会紀要』第55号、査読無、2014年、117-126頁。
- (2) 伊藤敦美、「シカゴ大学教育学部におけるデューイ学科長時代の教師教育カリキュラム」『日本デューイ学会紀要』第53号、査読有、2012年、11-21頁。

- (3) 伊藤敦美「デューイ教育学構想における教育専門職教育論の検討 - シカゴ大学教育学部のカリキュラムを中心として - 」『日本デューイ学会紀要』第 52 号、査読有、2011 年、105 115 頁。

〔学会発表〕(計 4 件)

- (1) 伊藤敦美「コロンビア大学ティーチャーズ・カレッジにおける教師教育カリキュラム - 1900 年度を取り上げて - 」日本デューイ学会第 58 回研究大会、2014 年 10 月 4 日、同志社大学 (京都府・京都市)。
- (2) 伊藤敦美「デューイ実験学校の意義 - 教師の役割 - 」日本デューイ学会第 57 回研究大会シンポジウム、2013 年 9 月 21 日、新潟青陵大学(新潟県・新潟市)。
- (3) 伊藤敦美「シカゴ大学教師教育カリキュラム - デューイ教育学科長時代と教育学部長時代を比較して - 」日本デューイ学会第 56 回研究大会、2012 年 9 月 23 日、東洋大学(東京都)。
- (4) 伊藤敦美「シカゴ大学におけるデューイ教師教育カリキュラム - シカゴ大学教育学部のカリキュラムを中心として - 」日本デューイ学会第 55 回研究大会、2011 年 10 月 1 日、関西学院大学 (兵庫県・西宮市)。

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

伊藤 敦美 (Ito Atsumi)  
長岡技術科学大学・工学研究科・准教授  
研究者番号：80387315

### (2)研究分担者

なし。

### (3)連携研究者

なし。